参考資料

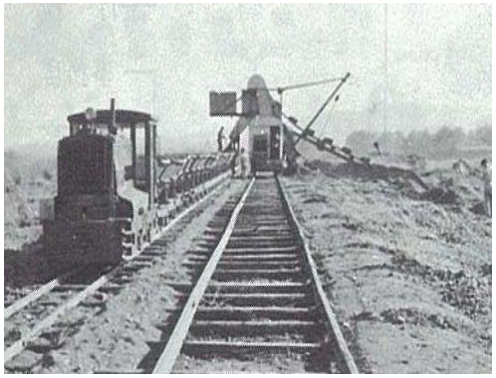
【堤防詳細点検】

北秋田市の鷹巣地区市街地側（右岸）の堤防は、昭和２６年から昭和３３年にかけて北秋田市において最初に作られた堤防です。作られ始めた当初は人力で、途中から建設機械が導入され堤防が完成し、堤防が出来てから約５０年の間、地域を洪水から守ってきたところです。

しかしながら、かつての堤防は経験的な設計で作られていたため、能代河川国道事務所では堤防を調査し、現在の解析手法に基づいて堤防の安全性について詳細な点検を行っているところです。

その結果、鷹巣地区市街地側（右岸）の堤防のうち、鷹巣橋から東鷹巣橋間の堤防の安全性が確保されていないことが確認されました。





▲昭和３０年代の堤防建設状況

河川堤防は、かつて洪水の度毎（たびごと）に嵩上げなどの補強がなされてきました。ところが、堤防の基礎地盤や堤体材料が均一でなく、洪水時に堤防機能が十分発揮できないところがあるため、堤防の質的調査や浸透に対する評価を行い、その対策を検討しています。

